

## 【日本史探究面接プリント（後期第3回）】

はじめに

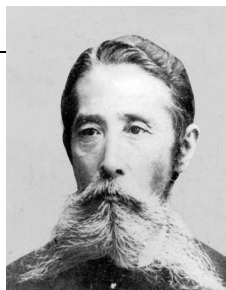
後期第3回レポートは明治時代中期・後期の国内政治と国際関係について学びます。自由民権運動の未曾有（みぞう）の盛り上がりを経験して、日本は、憲法と議会を備えた近代国家として歩み始めました。近代化を推し進める中で、日本も欧米諸国と同様に海外進出をし、植民地を求めようとしました。日清戦争と日露戦争がそれですが、この2つの戦争が日本の行方をどのように決めたのでしょうか？これらの戦争について、国際情勢と関連させて考えてみましょう。

（提出〆切：12月3日。期限内の提出・合格を！）

### 1 「政府専制への批判」

ねらい

自由民権運動に関する設問です。自由民権運動は、運動を指導するもの、運動を支持するもの、それを圧迫する政府などが複雑に絡み合い、変化するので、そこをしっかりと理解する必要があります。新政府が強力な中央集権体制を志向したのに対し、自由民権運動は「国会開設の要求」を中心要求として、民衆の声を政治に反映させようとしました。明治維新は江戸時代（近世）の支配者であった士族の間での政権交代であったという考え方もあります。そういった意味ではフランス革命やアメリカ独立戦争のような「革命」ではありません。明治政府新に対し、遅れて目覚めた民衆の運動がどのように展開していくの理解しましょう。



#### 問1【解答番号①～⑭】

⇒教科書214～215頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ170～172頁を参照。

#### 問2【解答番号⑮】

⇒教科書214頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ169頁を参照。

西南戦争は西郷隆盛を中心とした鹿児島県士族の反乱で、最後の内乱と言われます。西郷軍は熊本城を包囲し、街は焼き払われました。西南戦争の最大の激戦地が田原坂の戦い（熊本市北区植木町）です。政府軍が熊本市へ侵入することを防ぐため北上した西郷軍がここで激戦を行いました。西南戦争で使われた銃弾の数は、後に行われた日清戦争よりも圧倒的に多かったのです。多くの犠牲者を出して、最後に士族の反乱は終止符を打ったのです。

#### 問3【解答番号⑯】

⇒教科書215頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ172頁を参照。

#### 問4【解答番号⑰】⇒教科書216頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ170～172頁を参照。

### 2 「立憲政治の成立」

ねらい

国会開設を約束した政府は、立憲政治の体制を固める準備を行います。それは、それまで自由民権運動を繰り広げてきた民衆も同じです。都市から農村まで有志による勉強会が開かれ、理想的な憲法や国会の姿について議論が繰り広げられました。東京奥多摩の農家の倉から発見された「五日市憲法」はその熱気を伝えるものです。民主主義国家で有りながら、政治への熱が冷めてしまった日本国民も刺激になる史料ですね。

#### 問1【解答番号⑱～⑳】

⇒教科書218～219頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ174～175頁を参照。

#### 問2【解答番号㉑】

⇒教科書218頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ174頁を参照。

#### 問3【解答番号㉒】

⇒教科書219頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ174頁を参照。

#### 問4【解答番号㉓】

⇒教科書219頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ174頁を参照。

明治時代の物価は、もりそばが1銭、牛乳（1本）が3銭でした。これから現在の物価で計算すると、当時の15円は、現在の60万～70万円ぐらいと思われます。選挙権も高額納税者（高所得者）に限ることによって人口の1.1%（45万人）の人しか持っていませんでした。

#### 問5【解答番号㉔】

⇒教科書220頁を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ175頁を参照。

第1回議会から第6回議会までを初期議会と言います。自由民権運動の系譜を引く民党と政府系の吏党（りとう）の対立が特徴で、選挙の際は敵陣営の投票を妨害するために死者まで出る選挙干渉が行われました。



ねらい

明治政府が成立した19世紀後半は、**帝国主義**の時代と呼ばれます。産業革命を達成した欧米諸国は、原料の供給地や製品の販売地としてアジアやアフリカに植民地を拡大していきます。中国まで進出をした欧米を前にして成立した、弱々しい国家が明治政府でした。自然、政府の成立時から明治国家は軍国主義的な性格を持っていました。日本にとっての重要であったのはお隣、朝鮮でした。朝鮮を架け橋とした大陸での勢力伸長政策は、国家や軍部にとって、常に大きな課題となります。現在、韓国や北朝鮮と、日本の関係は良いとは言えませんが、この様な国と国との関係も、歴史的な関係から掘り起し、考えていかなければなりません。

問1【解答番号③④】⇒教科書224～225、234～236㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ179～183㊦を参照。

明治時代に入って、朝鮮とのかかわりはより大きくなります。西南戦争などの士族反乱は、朝鮮をめぐる対応について、政府部内での意見が対立が原因でした（征韓論VS.内地優先論）。自由民権運動でも、朝鮮とどのように関わっていくかというのが常に議論されました。朝鮮は日本と同じく鎖国を続け、改革が日本より遅れました。それは、宗主国（そうしゅこく＝上下関係を持った国）とする清との強い関わりがそうさせたものと思われる。朝鮮半島は、古い体質を持つ大国「清」と近代化を進める新興国「日本」、植民地拡大を狙って南下してくる大国「ロシア」との争いの場となります。

問2【解答番号④】

⇒教科書224㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ179㊦を参照。

問3、4【解答番号④⑤】

⇒教科書235、236㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ181㊦を参照。

「アーカイブ」181㊦**③**のグラフに見るよう

に、軍事力、経済力、人的な犠牲の上でも日露戦争はけた違いで、文字通り死力を尽くして大国「ロシア」に挑みました。国民の負担も大きく、戦勝の喜びの後に望み通りの賠償が得られなかった失望が日比谷焼打ち事件を引き起こしました。戦争に向かうとき、人々は政府やマスコミの誘導もあって、開戦に積極的でしたが、その中で与謝野晶子などの文人、社会主義やキリスト者などの人道主義に基づいた反戦の主張もありました。

問5【解答番号⑦⑧】

⇒教科書236、268㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ182～183㊦を参照。

その後、日本は韓国を併合し、日本の一部とします。韓国にとっては、日本がアジア・太平洋戦争に敗れる1945年8月15日まで国を失うことになるのです。「アーカイブ」183㊦の日朝関係史を読んで、日本と韓国・

北朝鮮の心情の深層に流れる感情を考えてみましょう。

日露戦争の勝利は、世界史的にみても大きな奇跡でしょう。それは、圧倒的な両国の国力の差や、日本がこの戦争よりわずか37年前に生まれた「新入り」の国家だと考えた上です。日露戦争を描いた司馬遼太郎の『坂の上の雲』では、次ような導入をしています。

「まことに小さな国が、開花期を迎えようとしている。小さなといえば、明治初期の日本ほど小さな国はなかったであろう。産業といえば農業しかなく、人材といえば三百年の間、読書階級であった旧士族しかなかった。明治維新によって、日本人は初めて近代的な「国家」というものを持った。誰もが「国民」になった。不慣れながら「国民」になった日本人たちは、日本史上の最初の体験者としてその新鮮さに昂揚（こうよう）した。この痛々しいばかりの昂揚がわからなければ、この段階の歴史はわからない。……

彼らは、明治という時代人の体質で、前のみを見つめながら歩く。

登っていく坂の上の青い天に、もし一朵（いちだ）の白い雲が輝いているとすれば、そののみを見つめて、坂を登っていくであろう。」

日露戦争での日本の勝利は、欧米の帝国主義諸国が弱小国を圧倒する世界で、植民地支配に苦しむアジア・アフリカの人々に大きな影響を与えたことは事実です。一方で日本も同じく帝国主義諸国の仲間入りをし、弱肉強食の「強者」になり、アジア諸国を侵略し始める事実も考えなければなりません。

問1【解答番号49～59】⇒教科書226～232㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ184～187、167㊦を参照。

問2【解答番号60】⇒教科書230㊦を参照。

写真資料館日本史のアーカイブ187㊦を参照。

徳富蘇峰は、水俣市出身の思想家・歴史家・ジャーナリストです。本名は徳富猪一郎（とくとみ いちろう）で自由民権運動に参加し、熊本の政治に大きな影響を与えました。『蘇峰』は阿蘇山から由来しますが、東京に出てからは民友社づくり、そのペンネームで民衆に基礎を置く欧化主義を唱えて言論界に活躍しました。

「御真影」（天皇の写真）を学校に飾る行為がどのような意味を持つのか考えてみましょう。遅れて近代国家を目指した日本が、何を支えに国民を統合し、強力な（国民を支配しやすい）国家を作り上げていったかが判ります。

